

社会教育による地域の教育力強化プロジェクト

テーマ：○地域支援人材の養成

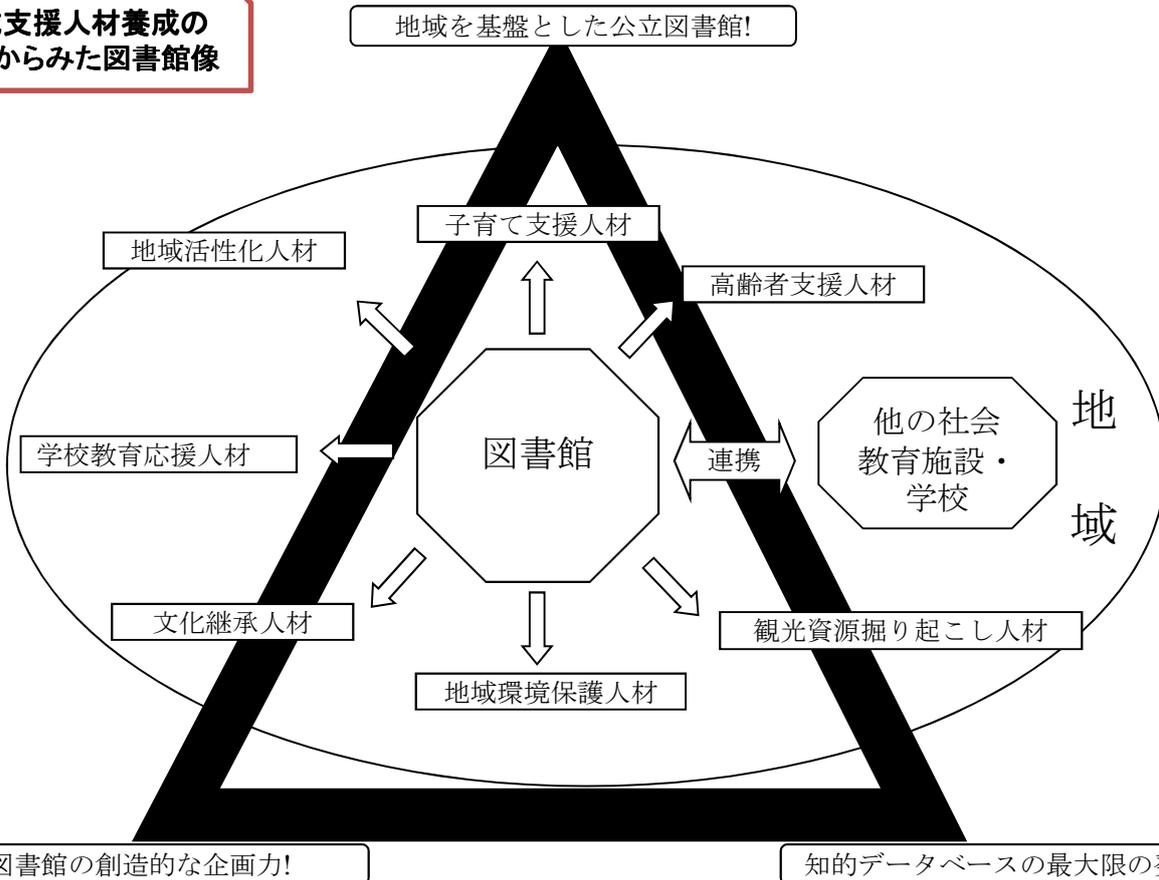
平成22年度文部科学省委託事業
社会教育による地域の教育力強化プロジェクト事業報告書
：徳島県地域教育力強化プロジェクト実行委員会

「図書館による地域支援人材の養成 ～エフェクティブライブラリーめざして～」

◆目的

徳島県内の公立図書館では、地域の学校を応援する読書ボランティアの養成はじめ、地域の子育て支援や高齢者福祉を中心とした福祉問題などに取り組むグループなどを支援する活動を展開する図書館が増えつつある。しかし、読書ボランティアの養成以外では、中山間地域の図書館がその積極性を発揮できていないのが現状でもある。そこで、中山間地域の地域支援人材養成における図書館の役割並びに効果的な取組について実証研究することとした。

地域支援人材養成の 観点からみた図書館像



中山間地域において、地域に根ざした活動を展開してきた公立図書館の特性を活かすとともに、図書資料を中心とした地域の知的財産を最大限に活用し、地域で活躍できる多種多様な人材を豊かな発想のもとで養成する。このプロジェクトを通して、地域人材の養成の観点から、これからの図書館の役割について、また、地域において効果のある図書館の活動について、上記の図書館像をめざし研究する。

社会教育による地域の教育力強化プロジェクト

◆具体的計画内容及び研究日程

□計画内容

県内公立図書館のうち、中山間地域の占める割合の高い県西部(美馬市立脇町図書館)、県南部(海陽町立図書館)の各地域の公立図書館をモデルとして、Aプログラム(地域の学校を読書活動を通じて応援する人材の養成と地域の環境問題に取り組もうとするグループの養成・支援の組合せ)とBプログラム(地域の学校を読書活動を通じて応援する人材の養成と地域の素材に焦点を当て地域経済の活性化を図ろうとするグループの養成・支援の組合せ)を実施する。

・Aプログラム

- ①地域の学校応援・地域の環境教育に対する事前アンケート実施 →
- ②学校応援オープニング講座 → ③学校応援第1回講座 →
- ④地域環境教育オープニング講座 → ⑤地域環境教育第2回講座 →
- ⑥学校応援に関する講座生と地域環境教育に関する講座生による合同学習会

・Bプログラム

- ①地域の学校応援・地域活性化に対する事前アンケート実施 →
- ②地域活性化オープニング講座 → ③地域活性化第2回講座 →
- ④学校応援オープニング講座 → ⑤学校応援第2回講座 →
- ⑥地域活性化に関する講座生と学校応援に関する講座生による合同学習会

◆研究実施日程

※第1回徳島県地域教育力強化プロジェクト実行委員会(実証的研究会) 平成22年10月29日(金)

・Aプログラム(海陽町)

- ①地域の学校応援・地域の環境教育に対する事前アンケート実施:11月15日(月)
- ②学校応援オープニング講座(読書応援団養成講座):11月21日(日)13:30~15:00
講師:きむら ゆういち 氏(絵本作家)「絵本の読み聞かせ、子どもの本の選び方」
- ③学校応援(読書応援団養成講座)第2回講座:12月11日(土)13:00~16:00
講師:余郷 裕次 氏(鳴門教育大学大学院教授)「絵本の読み聞かせの意義と方法」
- ④地域環境教育オープニング講座(環境教育プログラム応援団養成講座):
11月28日(日)13:00~15:00
講師:近森 憲助 氏(鳴門教育大学大学院教授)「放課後子ども教室で取り組む環境教育Ⅰ」
- ⑤地域環境教育(環境教育プログラム応援団養成講座)第2回講座:12月5日(日)13:00~15:00
講師:近森 憲助 氏「放課後子ども教室で取り組む環境教育Ⅱ」
- ⑥学校応援・地域環境教育に関する講座生による合同学習会
(読書応援団養成講座・環境教育プログラム応援団養成講座受講生による合同学習会):
12月19日(日)13:00~15:00

※第2回徳島県地域教育力強化プロジェクト実行委員会(実証的研究会)12月17日(金)

・Bプログラム(美馬市)

- ①地域の学校応援・地域活性化に対する事前アンケート実施:12月10日(金)
- ②地域活性化オープニング講座(地域活性化応援団養成講座):12月18日(土)13:00~15:00
講師:金西 計英 氏(徳島大学教授)「うだつの町並みから地域活性化に取り組むⅠ」
- ③地域活性化(地域活性化応援団養成講座)第2回講座:1月23日(日)13:00~15:00
講師:金西 計英 氏(徳島大学教授)「うだつの町並みから地域活性化に取り組むⅡ」
- ④学校応援オープニング講座(読書応援団養成講座):1月22日(土)13:00~15:00
講師:くすのきしげのり 氏(絵本作家)
「作者が語る絵本の世界 ~一人ひとりの心を見つめるために~」
- ⑤学校応援第2回講座:2月6日(日)13:00~16:00
講師:余郷 裕次 氏(鳴門教育大学大学院教授)「絵本の読み聞かせの意義と方法」
- ⑥地域活性化・学校応援に関する講座生による合同学習会
(読書応援団養成講座・地域活性化応援団養成講座受講生による合同学習会):
2月11日(金)13:00~15:00

※第3回徳島県地域教育力強化プロジェクト実行委員会(実証的研究会)2月8日(火)

Aプログラム(海陽町)「事前アンケートからみた図書館への期待」

※地域の学校応援・地域の環境問題に対する事前アンケート内容

地域における学校応援・環境保護上の課題や、地域の学校・環境に対する住民の持つ展望を明らかにするとともに、公立図書館へのニーズ等を把握する。

※海陽町内事前アンケート配布・据え置き数(150部) → アンケート回収 27部

※あなたの性別、年齢層についてあてはまるものに○を付けてください。

[性別]

a 男性 **11%** b 女性 **89%**

[年齢層]

a 20歳以上～40歳未満 **19%** b 40歳以上～60歳未満 **55%** c 60歳以上 **26%**

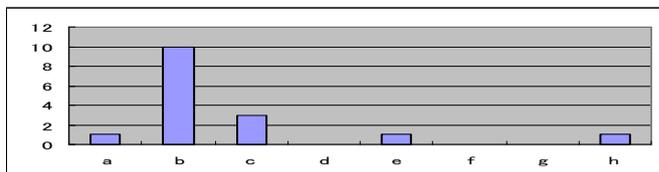
問1 あなたは現在(あるいはこれまで)、地域の学校や子どもたち活動(読み聞かせ、社会・理科などの授業の補助、部活動の補助、学校環境の整備、登下校の見守りなど)を支援する活動を行っていますか(行ったことがありますか)。

a はい **56%** → 問2へ

b いいえ **44%** → 問6へ

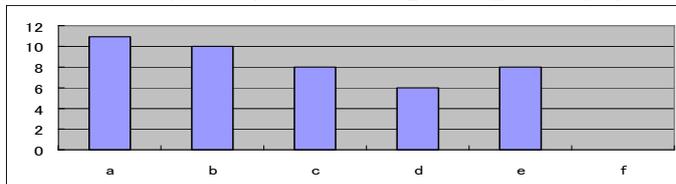
問2 問1でaと答えた人にお聞きします。はじめたきっかけは何でしたか。次の中から1つ選んでください。

- a 自発的に学校の先生をたずねてはじめた
- b 友人・近所の方が活動をしており、誘われたから
- c 学校の先生に頼まれたから
- d PTA活動
- e 自治会、婦人会等から頼まれたから
- f 近所の方の多くが活動しているから
- g 教育委員会から依頼されたから
- h その他(子育て支援活動が必要と感じ、ボランティアサークルを立ち上げた。)



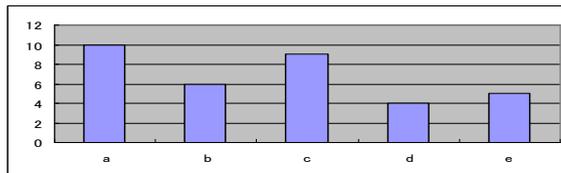
問3 問1でaと答えた人にお聞きします。あなたが問1の活動の中で心がけていることは何ですか。あてはまるものをすべて選んでください。

- a いつも子どもには明るく接する
- b 子どもには大きな声でわかりやすく話す
- c どの子どもたちにも、公平な態度で接する
- d 子どもたちの前では、周りの大人の批判はしない
- e 子どもの良いところ、成長したところはどんどん褒める
- f 特にはない



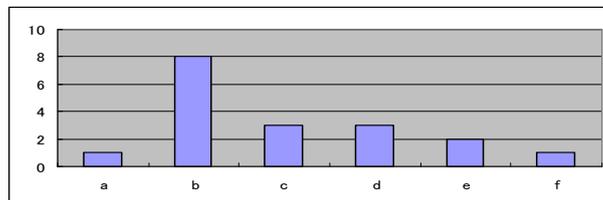
問4 問1でaと答えた人にお聞きします。問1の活動を通して、あなたにとってプラスとなったものは何ですか。あてはまるものをすべて選んでください。

- a 子どもたちとふれあうことによって、生きがいを感じる(元気になる)
- b 自分の仕事や趣味を生かすことができるので、やりがいを感じる
- c 活動を通して、自分の人間関係が広がった
- d 学校や先生に対する理解が深まった
- e 授業や子どもたちの成長に役立つことができた喜び



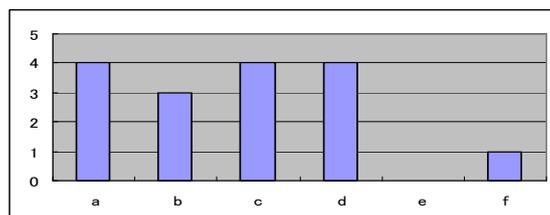
問5 問1でaと答えた人にお聞きします。問1の活動の中で、課題と思われることは何ですか。あてはまるものをすべて選んでください。

- a 子どもとの接し方が難しい
 - b 子どもたちに教える技術や方法がもっとあれば良いと感じる
 - c 学校の一日の動きや学校のことについて、あまり知らない
 - d 家庭や仕事の都合上、時間が思うようにとれない
 - e 活動を支え合うグループや、サポートしてくれる存在が必要
 - f 特にない
- 問7へ



問6 問1でbと答えた人にお聞きします。活動をしていない(したことのない)理由は何ですか。あてはまるものをすべて選んでください。

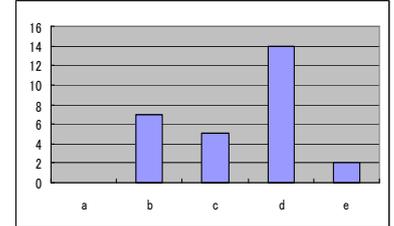
- a 学校、子どもたちとの接点がない
- b 活動には興味はあるが、どこに問い合わせをすればよいかわからない
- c 時間の余裕がない
- d 資格であるとか、特別な技術・知識をもっていない
- e 子どもたちとの接し方がわからない
- f 理由は特にない



社会教育による地域の教育力強化プロジェクト

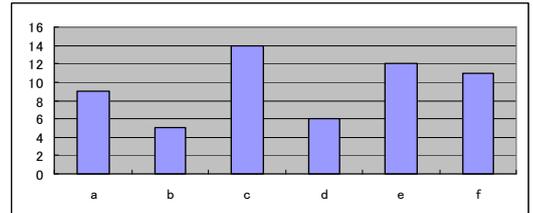
問7 持続可能な地球環境を維持する上で重要な意義を持つと思われる環境教育のすすめ方について、あなたはどのように考えますか。次の中から1つ選んでください。

- a 学校に任せておくべきである
- b 学校での取組も重要であるが、子どもに最も身近な家庭ですすめていくべきである
- c 地域の環境の維持につながることで、地域から子どもたちに働きかける取組が必要である
- d 地域と学校が連携した取組がこれから重要になってくる
- e 地域では、子どもたちへの環境教育より、まず、大人が環境問題に取り組んだ方がよい



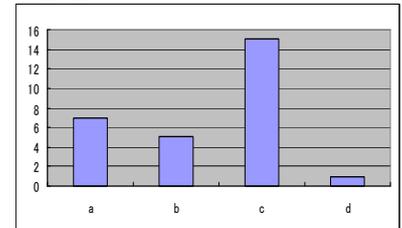
問8 地域で子どもたちに環境教育をすすめることを前提に、どのような条件等が整えば、地域で環境教育を展開することができますか。次の中から、あてはまるものをすべて選んでください。

- a 地域に環境教育に取り組む素材(自然環境を含めた)が豊富にある
- b 学校との連携体制が十分取れている
- c 地域住民全体に環境教育の重要性が浸透している
- d 環境問題に取り組む関係機関との連携が取れている
- e 環境教育を展開する上での知識や技術を持った指導者が複数いる
- f 環境教育を地域ですすめていこうとする指導者やグループを支援する体制が整っている(行政も含めて)



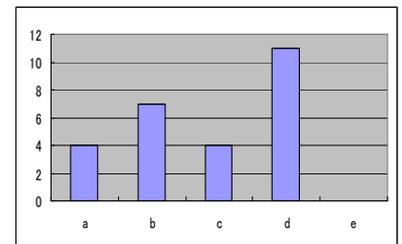
問9 学校を応援するボランティア活動や、放課後の子どもを支援する放課後子ども教室などの、地域の教育力を活かした、地域の人材による取組が県内各地で展開されていますが、このような取組についてどう思われますか。次の中から1つ選んでください。

- a 学校の教育活動を地域で支援すべきである
- b 学校の教育活動は学校に任せ、放課後、休日の子どもの活動は地域で支援すべきである
- c 学校の教育活動、放課後、休日の子どもの活動すべてを地域全体で支援すべきである
- d このような取り組みに関心がない



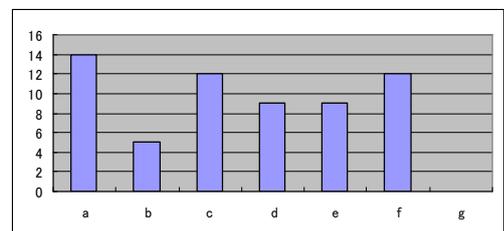
問10 地域の教育力を活かした、学校を応援する活動を広げるためには、どのような取組が必要だと思われますか。次の中から1つ選んでください。

- a 学校、教育委員会が積極的に施策、体系的な取組としてすすめていくべきである
- b ボランティア等の地域人材を養成する機会が必要である
- c 地域の中に、地域の教育活動をまとめるリーダー的な存在が必要である
- d 地域が、学校の教育活動、放課後、休日の子どもの活動にどう関わっていくべきかを話し合う機会が必要である
- e これまでも地域と学校が連携してきたので、特に新たな取組は必要ない



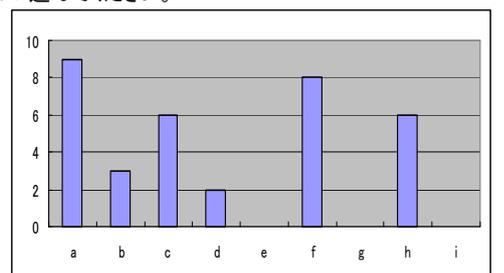
問11 地域の図書館で実施してもらいたいサービスにどのようなものがありますか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。

- a 本・読書についての相談活動・情報の提供
- b 各種調査・研究についての相談・支援
- c 読み聞かせなどのボランティア活動への助言・支援
- d 読書会などのサークル活動への支援
- e 学校図書館への支援
- f 仕事や生活に役立つ講演会や講座の開催
- g その他(とにかく本をいっぱい購入してほしい)



問12 今後、地域の図書館が力を入れるべき分野はどの分野だと思いますか。次の中から1つ選んでください。

- a 幅広い分野の図書資料の収集・提供
- b 子ども向けの図書資料の収集・提供
- c 地域の資料の収集・保存・提供
- d ビジネス、医療・健康、法律等、仕事や生活に役立つ資料・情報の提供
- e 各種のデータベース等による情報提供
- f 各種講座開催による情報提供及び人材養成
- g 高等教育機関等の各種機関との連携
- h 利用環境の向上
- i その他(大人にも子どもにも読書をすすめる)



◆Aプログラム(海陽町)

学校応援オープニング講座(読書応援団養成講座): 11月21日(日)13:30~15:00

講師: きむら ゆういち氏(絵本作家)

絵本・童話作家。多摩美術大学卒業。造形教育の指導、テレビ幼児番組のアイデアブレインなどを経て、絵本・童話作家に。『あらしのよるに』(講談社)で講談社出版文化賞絵本賞。『オオカミのおうさま』(偕成社、絵・田島征三)で第15回日本絵本賞受賞。純心女子大学客員教授。

「絵本の読み聞かせ、子どもの本の選び方」

受講生の感想

○絵本作者の立場から、「あらしのよるに」を例に作品に込めた思いや意図を受講生に語っていただきました。「読者に作品の主人公になっていただき、感情移入していただければありがたい」という言葉が心に残りました。
○「読み聞かせ」については、「平たく読む」という、頭に浮かんだイメージ・世界を無意識に相手に伝えることであるという言葉がいただきましたが、読み方には何十種類も考えられるということで、少し自信が出てきました。



きむら ゆういち氏



読書応援団養成講座受講生



◆Aプログラム(海陽町)

学校応援(読書応援団養成講座)第2回講座: 12月11日(土)13:00~16:00

講師: 余郷 裕次氏(鳴門教育大学大学院教授)

国語教科書教材の研究や音読の研究に取り組み、15年ほど前から、絵本モンタージュ理論に基づいた絵本の分析に取り組む。絵本の読み聞かせ普及のため、学校等に出向き読み聞かせを実践するとともに絵本の仕掛けとその読み聞かせの効果について広めている。

「絵本の読み聞かせの意義と方法」: 読み聞かせの意義についての講義と、受講生による絵本読み聞かせの実技を含むワークショップ実施。

受講生の感想

○絵本の仕組みと赤ちゃんの母親への強い思いや視覚の関係について、初めて知ることができた。一つひとつの作品の構成を理解して読み聞かせをすることによって、これまでと違った「読み聞かせ」を展開することができると感じた。
○「読み聞かせ」は「絵本」と愛を伝えることであるという言葉が非常に印象に残りました。また、子どもが大きくなっても様々な効果があると聞き、実践を続けていきたいと思いました。



余郷 裕次氏



読書応援団養成講座受講生



社会教育による地域の教育力強化プロジェクト

◆Aプログラム(海陽町)

地域環境教育オープニング講座(環境教育プログラム応援団養成講座):

11月28日(日)13:00~15:00

講師:近森 憲助 氏(鳴門教育大学大学院教授)

昭和60年10月 医学博士。環境教育教材の研究とともに、自然や社会及び文化環境とのつながりに
ついて参加者が活動を通して気づくことを目的とする体験活動プログラムの開発及びその評価について
研究。徳島県放課後子どもプラン推進協議会会長。

「放課後子ども教室で取り組む環境教育Ⅰ」:子どもたちが身近な自然である樹木・草花
を観察し、名前を調べる際の名前のたどり方や早わかり方法等の指導・援助ついて学ぶ。

受講生の感想

- 自分にとってほんとうに身近な自然や環境について、改めて考える機会となった。子どもたちにプログラムを提供する前に、環境教育のねらいをしっかりと地域で協議しなければならないと感じた。
- 自分たちが考えたプランを受講生で共有することによって、環境への多様なアプローチを組み立てることができ、少し驚いた。



近森 憲助 氏



環境教育プログラム応援団養成講座受講生と講座の様子



◆Aプログラム(海陽町)

地域環境教育(環境教育プログラム応援団養成講座)第2回講座:

12月5日(日)13:00~15:00

講師:近森 憲助 氏(鳴門教育大学大学院教授)

「放課後子ども教室で取り組む環境教育Ⅱ」:海南図書館周辺の樹木・草花を実際に観
察するフィールドワーク実施。

受講生の感想

- 「絵本」を通じて、木や環境と人間との関係について子どもたちに考えてもらうこともできることが理解できた。
- 「木」を観察ポイントごとに観察することによって、そこにある木が、「ここにある」ということを印象づけ、自分にとって気になる木になるというお話から、この方法で自然をより身近に感じることができるのではと感じた。



近森 憲助 氏



環境教育プログラム応援団養成講座受講生と講座の様子



◆Aプログラム(海陽町)

学校応援・地域環境教育に関する講座生による合同学習会

(読書応援団養成講座・環境教育プログラム応援団養成講座受講生による合同学習会):

12月19日(日)13:00~15:00

「地域における子ども支援」:子どもの読書活動や「放課後子ども教室」などにおける活動の留意点などについて意見交換を行う。

受講生の感想

○学校でのボランティア活動に関心を持っているが、PTAではないので機会がない。今回の受講をきっかけとしたい。

○自分たちがボランティアで行っている環境保護に関する活動を、「放課後子ども教室」の子どもたちと行うことがあるが、定期的に活動ができるようにプログラム等を考えていきたい。



講座の様子



海陽町立海南図書館



「木」をテーマにした環境教育プランニング



受講生のワークショップ

各受講生が「木」を題材とした子どもたちの活動プランを提出し、取りまとめる

木を知る

木をスケッチする
葉・幹を観察する
聴診器を使い、幹の中を調べる

→ 観察・分類

木を植える

植樹をする
どんぐりから育てる

→ 植生を知る必要も

木と遊ぶ

木登り
木の採集

→ 木の実を食べてみる
アクセサリをつくる

木をつくる

劇をする

→ 自分自身が木になる



社会教育による地域の教育力強化プロジェクト

◆Bプログラム(美馬市)

地域活性化オープニング講座(地域活性化応援団養成講座):12月18日(土)13:00~15:00

講師:金西 計英 氏(徳島大学大学開放実践センター教授)

専攻:教育学, HCIシステム。大学開放実践センター公開講座や教育機関等において情報通信技術の普及に努める。

「うだつの町並みから地域活性化に取り組むⅠ」:最近, twitterやUSTREAMなどのソーシャルメディアに注目が集まっている。ITを用いて, 人と人のつながりを活性化するツールの一種であるソーシャルメディアがどのようなものであるかの理解を深めることをめざし, ソーシャルメディアの解説や事例について紹介。

受講生の感想

○個人で放送局をつくることができるようになったり, 情報を個人で世界へ発信することが可能になった現在, どのような情報が人々に良く伝わり, 人々を動かすのを考えなければならない。

○地域を活性化させるために情報発信が重要であることを改めて認識した。



金西 計英 氏



地域活性化応援団養成講座受講生

◆Bプログラム(美馬市)

地域活性化(地域活性化応援団養成講座)第2回講座:1月23日(日)13:00~15:00

講師:金西 計英 氏(徳島大学大学開放実践センター教授)

「うだつの町並みから地域活性化に取り組むⅡ」:ソーシャルメディアを用いることで, 実際に地域の活性化にどのようなことができるのか, 受講者一同で考えるとともに, 取り組みの事例を紹介し, 受講者自身が取り組みの方法について考える。

受講生の感想

○コンピュータ, インターネットを使った集合知の時代であり, インターネット上でコミュニティがつくられていることがよくわかった。

○ツイッター等での情報発信では, まず, 相手のことをしっかりと聞くこと, 会話・対話形式の中で自己主張を抑え, そして何より地域や社会を良い方向に向けるための発信であることが効果的であることを学べた。



金西 計英 氏



地域活性化応援団養成講座受講生

◆Bプログラム(美馬市)

学校応援オープニング講座(読書応援団養成講座):1月22日(土)13:00~15:00

講師:くすのきしげのり氏(絵本作家)

徳島県鳴門市在住。「心豊かに生きる」をテーマに、大学在学中より始めた創作童話・絵本・詩・童謡など児童文学の創作活動と小学校の教育現場における「徳育」を中心とした教育活動を続ける。その間、徳島県鳴門市立図書館副館長在職中には、民間との共同運営をはじめ、全国に先駆けた公立図書館における数々の改革や読書活動の推進に携わる。絵本『もぐらのサンディ』シリーズ①~④(岩崎書店)『おこだでませんように』(小学館)など著書多数。

受講生の感想

「作者が語る絵本の世界 ~一人ひとりの心を見つめるために~」

○ゆったりと優しい気持ちでお話を聞くことができました。絵本の見方について改めて考えさせられたし、作者の思いを知ることにより、読み聞かせにもきっと深みが出るよう頑張りたいと思います。

○作品の紹介やお話を聞いて私自身反省もしたり、感動したりさせていただきました。また、今日からさっそく子どもたちに読み聞かせを続けたいと思います。私も今日から「あたたかい人」の一人になりたいと思いました。



くすのきしげのり氏



読書応援団養成講座受講生



◆Bプログラム(美馬市)

学校応援(読書応援団養成講座)第2回講座:2月6日(日)13:00~16:00

講師:余郷 裕次氏(鳴門教育大学大学院教授)

「絵本の読み聞かせの意義と方法」:読み聞かせの意義についての講義と、受講生による絵本読み聞かせの実技を含むワークショップ実施。

受講生の感想

○子どもだけでなく、高齢者の方に対しても絵本の読み聞かせをしています。読み聞かせによって、自己肯定感を高めるメッセージを送り続けていきたいと思いました。

○子育てにおける「おんぶ」、「はいはい」、そして何より絵本を通じた親子の愛情形成の重要性を改めて実感しました。



余郷 裕次氏



読書応援団養成講座受講生



社会教育による地域の教育力強化プロジェクト

◆Bプログラム(美馬市)

地域活性化・学校応援に関する講座生による合同学習会

(地域活性化応援団養成講座・読書応援団養成講座受講生による合同学習会):

2月11日(金)13:00~15:00

「地域における子ども支援」: 地域での活動や地域における子ども支援のあり方についての意見交換。

受講生の感想

○学校でのボランティア活動に関心を持っているが、PTAではないので機会がない。今回の受講をきっかけとしたい。

○自分たちがボランティアで行っている環境保護に関する活動を、「放課後子ども教室」の子どもたちと行うことがあるが、定期的に活動ができるようにプログラム等を考えていきたい。



講座の様子

地域活性化応援団・読書応援団養成講座受講生がこれからすること「まとめシート」

受講生のワークショップ
各受講生が、これから行いたいことを提出し、取りまとめる

学校での読書以外の活動も

子どもにあいさつ等の声かけをする

学校等で花を植えたり環境整備をする

美馬市の小中学生にうだつの町並みを説明している

幼稚園でのマンドリン演奏

これからスタート

要請があればどこでも活動したい

活動への接点がない

学校での読み聞かせ

児童館等での読み聞かせ

地域で読み聞かせ会を開く

幼・小学校での朗読ボランティア

幼・小中学校での読み聞かせ

特別支援学校での読み聞かせ

交流を広げる

美馬市外の学校へもうだつの町並みの説明を普及する

朗読ボランティアの活動を録音し、広く広報する

他の読書サークルと合同し、活動を展開する

他の朗読ボランティアサークルとの交流

福祉分野での活動

施設や高齢者宅への訪問

社会福祉・高齢者養護施設での昔話語り・読み聞かせ

赤ちゃん健診時での読み聞かせ

乳幼児サークルでの紙芝居・読み聞かせ

他分野団体等との連携

うだつの町並みボランティアガイドの養成を行っている

全国の人を対象にした活動をしているので、活動のための人づくりのための機会をつくりたい

図書館と連携し、子ども・保護者を対象にした取り組みを継続していきたい

うだつの町並みでの読み聞かせ

マンドリン演奏と読み聞かせとのコラボ

マスメディアを活用し広報したい

より広域に

県全体のボランティアガイドの養成にこれからも携わっていきたい

Bプログラム(美馬市)「事前アンケートからみた図書館への期待」

※地域の活性化・学校応援に関する事前アンケート内容

地域の活性化及び地域における学校応援のあり方や展望を明らかにするとともに、公立図書館へのニーズ等を把握する。

※美馬市内事前アンケート配布・据え置き数(800部) → アンケート回収 146部

※あなたの性別、年齢層についてあてはまるものに○を付けてください。

[性別]

a 男性 **28%** b 女性 **72%**

[年齢層]

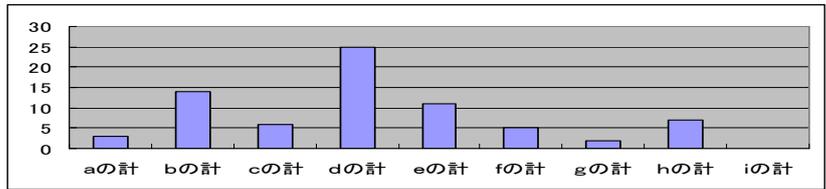
a 20歳以上～40歳未満 **16%** b 40歳以上～60歳未満 **39%** c 60歳以上 **45%**

問1 あなたは現在(あるいはこれまで)、地域の学校や子どもたち活動(読み聞かせ、社会・理科などの授業の補助、部活動の補助、学校環境の整備、登下校の見守りなど)を支援する活動を行っていますか(行ったことがありますか)。

- a はい **52%** → 問2へ
b いいえ **48%** → 問6へ

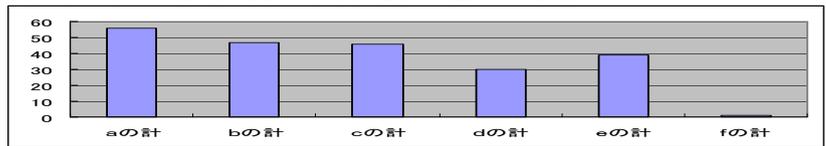
問2 問1でaと答えた人にお聞きします。はじめたきっかけは何でしたか。次の中から1つ選んでください。

- a 自発的に学校の先生をたずねてはじめた
b 友人・近所の方が活動をしており、誘われたから
c 学校の先生に頼まれたから
d PTA活動
e 自治会、婦人会等から頼まれたから
f 近所の方の多くが活動しているから
g 教育委員会から依頼されたから
h その他()



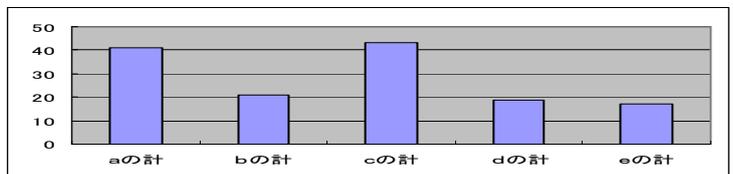
問3 問1でaと答えた人にお聞きします。あなたが問1の活動の中で心がけていることは何ですか。あてはまるものをすべて選んでください。

- a いつも子どもには明るく接する
b 子どもには大きな声でわかりやすく話す
c どの子どもたちにも、公平な態度で接する
d 子どもたちの前では、周りの大人の批判はしない
e 子どもの良いところ、成長したところはどんどん褒める
f 特にはない



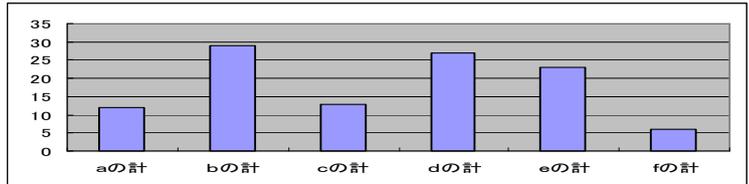
問4 問1でaと答えた人にお聞きします。問1の活動を通して、あなたにとってプラスとなったものは何ですか。あてはまるものをすべて選んでください。

- a 子どもたちとふれあうことによって、生きがいをを感じる(元気になる)
b 自分の仕事や趣味を生かすことができるので、やりがいをを感じる
c 活動を通して、自分の人間関係が広がった
d 学校や先生に対する理解が深まった
e 授業や子どもたちの成長に役立つことができた喜び



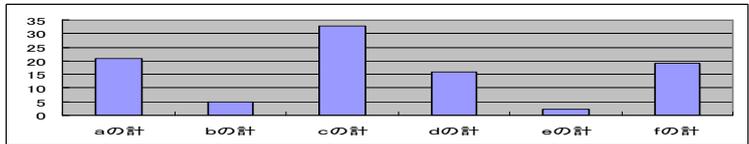
問5 問1でaと答えた人にお聞きします。問1の活動の中で、課題と思われることは何ですか。あてはまるものをすべて選んでください。

- a 子どもとの接し方が難しい
b 子どもたちに教える技術や方法がもっとあれば良いと感じる
c 学校の一日の動きや学校のことについて、あまり知らない
d 家庭や仕事の都合上、時間が思うようにとれない
e 活動を支え合うグループや、サポートしてくれる存在が必要
f 特にはない



問6 問1でbと答えた人にお聞きします。活動をしていない(したくない)理由は何ですか。あてはまるものをすべて選んでください。

- a 学校、子どもたちとの接点がない
b 活動には興味はあるが、どこに問い合わせをすればよいかわからない
c 時間の余裕がない
d 資格であるとか、特別な技術・知識をもっていない
e 子どもたちとの接し方がわからない
f 理由は特にはない

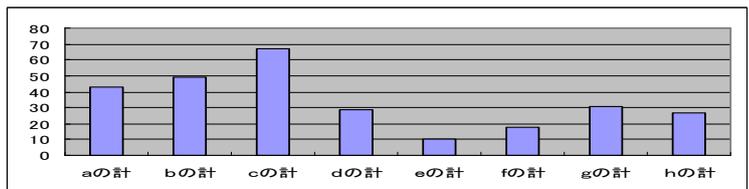


問7 地域の活動として、あなたはどのような活動を行っていますか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。

- a 子ども会などの、地域の子どもの健全育成に関する活動
b 地域の防災・防犯・交通安全に関する活動
c 地域の清掃・美化活動・環境保護活動
d 地域の観光やイベントに関する活動
e 地域の歴史や文化の掘り起こし、継承に関する活動
f 高齢者・乳幼児等への福祉活動
g 趣味の活動
h 特に行っていない

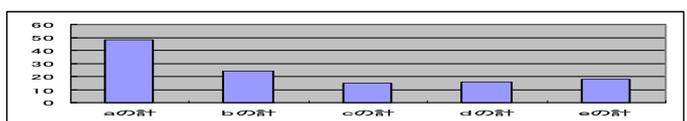
→ 問8へ

→ 問9へ



問8 問7の活動を行うきっかけについて、あてはまるものを次の中から1つ選んでください。

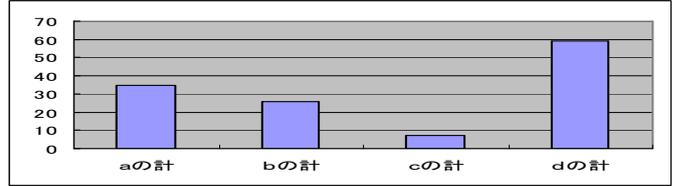
- a 自治会や婦人会等に入り活動するようになった
b 行政等の呼びかけに応じて活動するようになった
c 仲間とサークル等を立ち上げ、活動するようになった
d 行政や各種団体等が配布する講座や行事案内を見て、活動するようになった。
e 自らすすんで活動するようになった



社会教育による地域の教育力強化プロジェクト

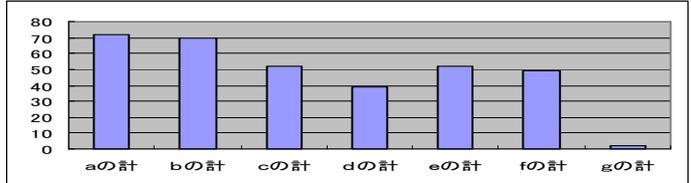
問9 地域の活性化を図る上での地域のあり方について、あなたはどのように考えますか。もっとも、あてはまるものを次の中から1つ選んでください。

- a 日ごろから地域住民自らが住民の親睦を深める、絆を強める活動を継続的に行う
- b 地域住民自らが住民の結びつきや、地域の課題解決に協力しようとする意識を高める機会をつくる
- c 行政が住民の結びつきや、地域の課題解決に協力しようとする意識を高める機会を設ける
- d 地域住民・行政が連携し、住民の結びつきや、地域の課題解決に協力しようとする意識を高める機会をつくる



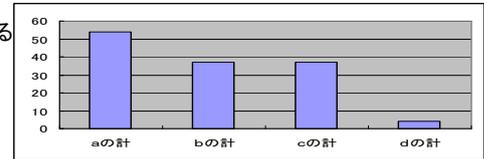
問10 地域の活性化をすすめるために、あなたが必要と考えるものを次の中からすべて選んでください。

- a 中心となって活性化をすすめるキーマン(コーディネーター)の存在
- b 活性化を担う人材の育成
- c 地域活性化の手法や地域活性化例などの情報・知識
- d 活性化を担う人材が活動・協議する場
- e 活性化のための経費
- f 行政の支援
- g その他()



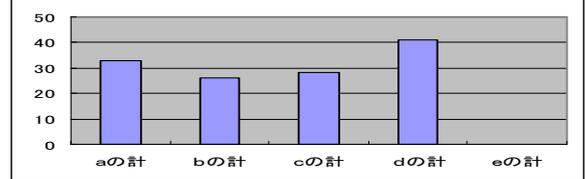
問11 学校を応援するボランティア活動や、放課後の子どもを支援する放課後子ども教室などの、地域の教育力を活かした、地域の人材による取組が県内各地で展開されていますが、このような取組についてどう思われますか。次の中から1つ選んでください。

- a 学校の教育活動を地域で支援すべきである
- b 学校の教育活動は学校に任せ、放課後、休日の子どもたちの活動は地域で支援すべきである
- c 学校の教育活動、放課後、休日の子どもたちの活動すべてを地域全体で支援すべきである
- d このような取り組みに関心がない



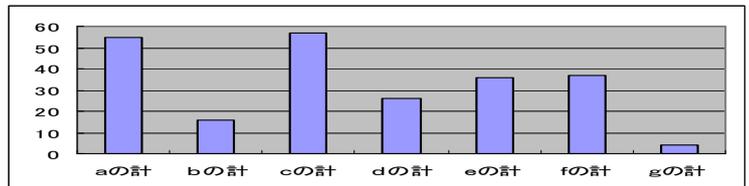
問12 地域の教育力を活かした、学校を応援する活動を広げるためには、どのような取組が必要だと思われますか。次の中から1つ選んでください。

- a 学校、教育委員会が積極的に施策、体系的な取組としてすすめていくべきである
- b ボランティア等の地域人材を養成する機会が必要である
- c 地域の中に、地域の教育活動をまとめるリーダー的な存在が必要である
- d 地域が、学校の教育活動、放課後、休日の子どもたちの活動にどう関わっていくべきかを話し合う機会が必要である
- e これまでも地域と学校が連携してきたので、特に新たな取組は必要ない



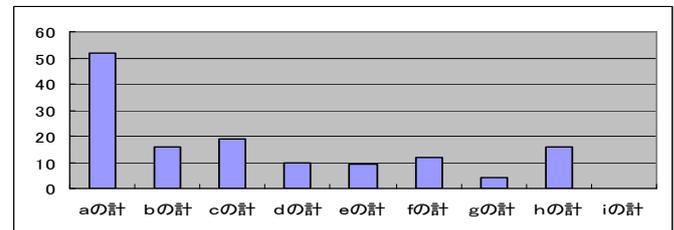
問13 地域の図書館で実施してもらいたいサービスにどのようなものがありますか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。

- a 本・読書についての相談活動・情報の提供
- b 各種調査・研究についての相談・支援
- c 読み聞かせなどのボランティア活動への助言・支援
- d 読書会などのサークル活動への支援
- e 学校図書館への支援
- f 仕事や生活に役立つ講演会や講座の開催
- g その他()



問14 今後、地域の図書館が力を入れるべき分野はどの分野だと思いますか。次の中から1つ選んでください。

- a 幅広い分野の図書資料の収集・提供
- b 子ども向けの図書資料の収集・提供
- c 地域の資料の収集・保存・提供
- d ビジネス、医療・健康、法律等、仕事や生活に役立つ資料・情報の提供
- e 各種のデータベース等による情報提供
- f 各種講座開催による情報提供及び人材養成
- g 高等教育機関等の各種機関との連携
- h 利用環境の向上
- i その他()



【プログラム実施前の当該年度における成果目標に対する結果・分析】

・A・Bプログラムともに、地域の学校を読書活動を通じて応援する人材の養成者数を20名と設定していたが、Aプログラムで27名、Bプログラムでは12名の養成にとどまった。しかし、地域の環境問題や活性化に取り組もうとするグループの立ち上げと活動方針については、「木に関する環境教育プランニング」、「これからの活動取りまとめシート」の作成等を通じて、一定の成果を挙げたと捉えている。

・地域の図書館に対する事前アンケート結果において、図書資料の提供やレファレンスの充実を期待する声が多くあった。また、実証的研究会でも委員から同様の意見も出された。しかしながら、本プログラムを実施する中、本講座受講生が中心となって企画した「読み聞かせ」の講演が小学校で実施された。地域の図書館、図書館職員が人材養成等を目的とした講座を開講するなどの働きかけを地域にすることによって、地域が反応する好例を得ることができた。本プログラム実施を通じて、図書館が地域での読書活動振興はじめ、地域活性化の観点においても重要な位置を占めていることを改めて認識した。

発行：徳島県地域教育力強化プロジェクト実行委員会
(事務局：徳島県教育委員会生涯学習政策課)

平成23年3月